

薬学入門

責任者・コーディネーター	構造生物薬学講座 野中 孝昌 教授 細胞病態生物学講座 北川 隆之 教授 薬物代謝動態学講座 小澤 正吾 教授		
担当講座・学科(分野)	天然物化学講座、微生物薬品創薬学講座、創剤学講座、構造生物薬学講座、薬物代謝動態学講座、細胞病態生物学講座、薬剤治療学講座、衛生化学講座、生体防御学講座、神経科学講座、臨床医化学講座、臨床薬剤学講座、分子生物薬学講座		
対象学年	1	区分・時間数	講義 30 時間
期 間	通期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

「命と向き合う医療人としての使命」、「社会へ貢献するために必要な礎」を提示し、生涯にわたって向上心と研究心を持ち続けることの重要性を自覚させる。

・一般目標（GIO）

医療人になることへの自覚を促すために、医療関連施設の見学、種々の体験学習を行い、健康の維持と疾病を治癒することの大切さを実感し、医療コミュニケーション、疾病解析と予防、治療薬を開発するための基本的知識、技能、態度と倫理観を身につける。

・到達目標（SBO）

1. 「薬とは何か」を概説し、薬の発見と歴史について具体例を挙げて説明できる。
2. 鉱物、植物、微生物、動物由来の医薬品の具体例を挙げ、医薬品のシーズについて概説できる。
3. 医薬原料としての天然物質の資源を確保することに関する問題とその解決法について列挙できる。
4. 化合物が医薬品になり、使用されるまでの過程について概説できる。
5. 医薬品がなぜ効くかについて具体例を挙げて概説できる。
6. 医薬品の溶解、吸収、調剤に必要な基礎的計算ができる。
7. 医薬品の剤形とその特徴について概説できる。
8. 医薬品の服用と効果発現について概説できる。
9. 医薬品の患者さんへの適正使用と薬剤師の役割について概説できる。
10. 新規医薬品の開発・創製に必要な知識と技能について例示できる。

11. 医薬品開発の糸口と成功例、先端医療を支える医薬品の開発について概説できる。
12. 医療統計などから、疾患の実態とそれらの推移を知り、薬学的視点から説明できる。
13. 疾病の予防および健康の維持・増進について、薬学的視点から概説できる。
14. 近年における疾患の発症実態とそれらの推移を知り、解決法を例示できる。
15. 麻薬、大麻、覚せい剤、違法ドラッグの健康への影響を概説できる。
16. 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。
17. 人の誕生、成長、加齢、疾病、死の意味を考察し、医療と倫理的問題について概説できる。
18. 医療人としての倫理的規範、法律上の義務について列挙できる。
19. 救急救命法、心肺蘇生法、応急手当法の基礎を学び、模擬体験学習することによって、生命と向き合う医療人を自覚する。
20. 大学病院、薬局、各種施設などの医療現場を見学・体験学習（不自由体験など）し、患者さんの気持ち、医療チームを支える一員としての使命などについて討議する。
21. 相手の立場、文化、習慣、心理的状态によってコミュニケーションのあり方が異なること、またコミュニケーションの方法が例示できる。
22. コミュニケーションの取り方の基本を学び、体験学習する。
23. 医療の担い手としての自覚を持つために、医療に対する地域社会からのニーズへ目を向け、どのように対応したらよいか討議し、解決策を考える。
24. 薬剤師の社会における役割と生涯学習の重要性について考える。

・ 講義日程（矢）東 101 1-A 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/14	金	3	分子生物薬学講座	前田 正知 教授	薬学の勉強を始める
6/14	金	4	天然物化学講座	藤井 勲 教授	薬のシーズと創薬（1）
6/21	金	3	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	薬のシーズと創薬（2）
6/21	金	4	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	薬の誕生
6/28	金	3	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬はなぜ効くのか（1）
6/28	金	4	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	薬はなぜ効くのか（2）
7/5	金	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 准教授	チーム医療における薬剤師の役割
7/5	金	4	構造生物薬学講座 細胞病態生物学講座 薬物代謝動態学講座	野中 孝昌 教授 北川 隆之 教授 小澤 正吾 教授	薬剤師におけるコミュニケーションの重要性
7/12	金	3	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生体防御と病気

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
7/12	金	4	構造生物薬学講座 細胞病態生物学講座 薬物代謝動態学講座	野中 孝昌 教授 北川 隆之 教授 小澤 正吾 教授	健康を蝕む薬物
9/9	月	4	神経科学講座	駒野 宏人 教授	医療の現状と薬学
9/30	月	4	構造生物薬学講座 細胞病態生物学講座 薬物代謝動態学講座	野中 孝昌 教授 北川 隆之 教授 小澤 正吾 教授	早期体験学習の意義
10/28	月	4	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (1)
11/11	月	3	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (2)
11/11	月	4	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (3)
11/18	月	4	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (4)
11/25	月	3	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (5)
11/25	月	4	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (6)
12/9	月	4	薬剤治療学講座	三部 篤 特任教授	先端医療を支える薬の開発
12/16	月	4	構造生物薬学講座 細胞病態生物学講座 薬物代謝動態学講座	野中 孝昌 教授 北川 隆之 教授 小澤 正吾 教授	生涯学習の重要性

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ1 「ヒューマニズム・薬学入門」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 4,410 円)	2005
参	微分積分の基礎	味村 良雄	ムイスリ出版 (定価 2,100 円)	2005

・成績評価方法

定期試験、レポート及び出席状況を総合的に評価する。
特別講義の出席状況とレポート提出・内容の評価が加味される。

・特記事項・その他

1. 早期体験学習 平成 25 年 10 月 7 日（月）～10 月 18 日（金）＜9 日間＞
心臓蘇生法講習、不自由体験、調剤薬局見学、附属病院・薬剤部見学、製薬企業見学、調剤体験等
2. 授業毎に配布する資料を使用する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（アップル、MA896J/A Education）	1	スライドの投影のため